「生徒パーソナルファイル」の構築とその取組について

兵庫県立社高等学校
教諭　西本　高丈

はじめに

本校は、県立学校唯一の体育科、地域商業施設の活性化等に貢献している生活科学科、そして医療看護類型など４つの類型を設置している普通科の３学科からなり、それぞれの学科の特色を生かした充実した教育活動により、地域や保護者等から高い評価を得ている。一方、個々の生徒に目を向けると、学校生活への目的意識を見いだせない者や学習意欲の低下している者、さらには、良好な人間関係を築けず集団への帰属意識の低い者、自己有用感や存在感を実感できずにいる者、不登校傾向を示す者、リストカットや自殺未遂を起こす者等、課題を抱えた生徒も少なからず在籍している。

特に、体育科、寮生において、学校生活や寮生活になじめず、不適応や不登校傾向を見せる者が増えており、ここ３年間で進路変更した生徒が、120 名中９名も出続けているという現状から「心のサポート推進事業」の指定を頂いたところからこの取り組みは始まっている。

１　取組の内容・方法

(1)　生徒支援システムの構築とその変遷

冒頭にもあったように、本校生徒の多くは、明朗快活で基本的生活習慣が確立できている。しかしながら、一部の生徒の中には、深い課題を抱えた者もおり、より細かな対応が求められていた。そこで、特別支援にあるサポートファイルを参考として生徒一人一人の情報を細かく集約し、それを全教職員が把握することができるシステムの構築に着手した。

パーソナルファイルの観点は、高校生活を始めるにあたり、不安な点や、配慮してほしい事など、本人・保護者・中学校より情報をもらい集約したものをベースとしている。それを校内教職員用のサーバーに保管し、いつでも閲覧、入力が可能となるよう設置した。

また、ポストイット形式を採用することで、日々起こった出来事などを、随時入力することができ、生徒たちの変化を詳細にまとめるようにシステムを構築した。

図１　パーソナルファイル原本（初版）

初年度の書式は、図１のようにし、ポストイット形式のものは、どんどん追加されていくような形で、閲覧しにくいものであった。また、学期に１回プリントアウトしてファイリングして置くことも検討していたが、個人情報であるためセキュリティーの観点

から、どのように取り扱うかも検討した。２年目以降から、図２・３のような形式に変更し、閲覧したい生徒情報も素早く取り出すことができるようになり、課題であったポストイット形式の入力方法も簡素化され、その時に素早く入力したものを、個人ごとに、１クリックで表示することができるようになり、入力にかかる時間を削減することもできた。

また、個別に支援を要する場合には、その計画を立て、ポストイットの部分に焦点を当て、別ファイルとして活用することも行った。実際に、本事業の対象外の生徒であったが、対応する先生に対してそれぞれ違ったことを言っているケースがあり、パーソナルファイルを活用し、柔軟かつ適切に生徒対応をすることができた。

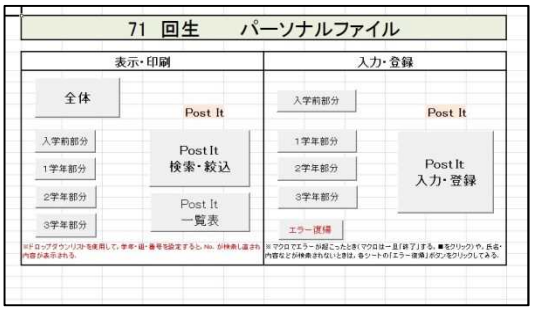

図２　パーソナルファイル入力フォーム

図３　ポストイット形式シート

(2)　生徒パーソナルファイルの活用方法及び変遷

生徒パーソナルファイルの活用の最重要点は、情報をいかに収集していくかにある。また、様々な活動を行うことで、普段見られない状況などを把握し、ポストイットでどんどん情報を集めていくことがポイントとなる。初年度は、本校でも問題を抱えている全県一区で寮生活を行っている生徒が多い、体育科１年生４０名を対象に行った。

・合格発表後すぐに中学校訪問

中学校を訪問して、パーソナルファイルの趣旨説明と、記入方法の説明、そして生徒個人の情報収集を行う。全県一区の体育科なので、全部の中学校訪問には正直難しい面もあるが、直接会うことで、保護者や生徒からは聞くことのできない生徒の内面や、家庭環境等も把握することができたのが、一番の成果と捉えている。初年度は、３３校（豊岡北中学校や猪名川中学校等）、２年目は、３２校（日高西中学校や三原中学校等）を体育科職員のみで行くことができた。また２年目は、対象生徒を１学年全クラスとしたことで、体育科合格者で北播磨地域の学校については、生活科学科と普通科の生徒を含め、３月の合格発表時に情報収集を行った。

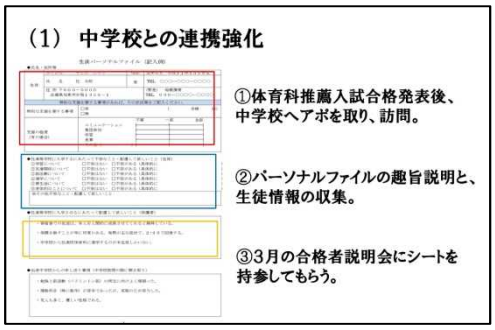

図４　パーソナルファイル説明シート

・各種活動を通じて、ポストイット情報の蓄積

初年度の対象であった体育科生は、学校敷地内にある寮生活をしているものが約７０％いるため、寮生活の在り方を再認識させるとともに、寮生面談を通じて情報を収集した。また、体育科職員以外の先生方にもご協力頂き、我々では見えない部分も多く知

ることができた。また、２年目も体育科寮生については同様に行い、生活科学科、普通科については、それぞれの科の先生方にご協力頂き、面談や特別活動中の様子などをピックアップしてもらい情報の蓄積を図った。寮生活動は以下の通り。

(ｱ) ７月末まで、１年生の入浴と食事を上級生が来るまでに完了するよう部活動終了時間を早めに設定する。また、可能な限りこの時間帯に教員が寮に待機し、いつでも相談に乗れる体制を考える。

(ｲ) 舎監の機会を活用し、部活動顧問や第３者による１年生の個人面談を実施する。（４・５月を中心）

(ｳ) 寮生集会を充実・活用し、講演会等、人権感覚育成の取組を行う。

(ｴ) 保健部と連携し、寮生の希望者を対象とした定期的なカウンセリングを設定（月１回程度)。また、状況によっては、専門機関との連携ができるようにする。

(ｵ) 寮生自ら寮の規則やマナーを考えさせる取組を行うとともに、寮主催のレクリエーション行事等を開催し、寮生全員の親睦を図る。

(ｶ) 体育科通学生の寮生活体験において、寮生に指導的な役割、相談役的な役割を担当させる。

(ｷ) 体育科教員以外の教員が定期的に舎監を担当し、学習支援にあたる。

図５　寮生面談①

図６　寮生面談②

図７寮生ボーリング大会

・ポストイット形式に重点を置いた活用法

(1)の末尾にも記載したが、応用方法として、ポストイットに重点を置いた活用法も見出すことができた。生徒本人が、対応する先生に対してそれぞれ発言内容が違い情報が錯綜することがあった。その為、実際のやり取りをポストイットに記載しながら、携帯電話の LINE 上のやり取りをそのまま画像として貼り付け、生徒の発言に対し共通認識で対応する場面も見られ、情報集約の簡素化が良い結果を導いた。今後の活用方法にも兆しが見られる部分であった。

図８　ポストイット形式例

２　取組の成果

(1)　「いじめ未然防止プログラム」を活用した成果

生徒パーソナルファイルの活用と共に、いじめ未然防止プログラムを実践した。アンケート結果の変化を成果の一つとしてとらえている。

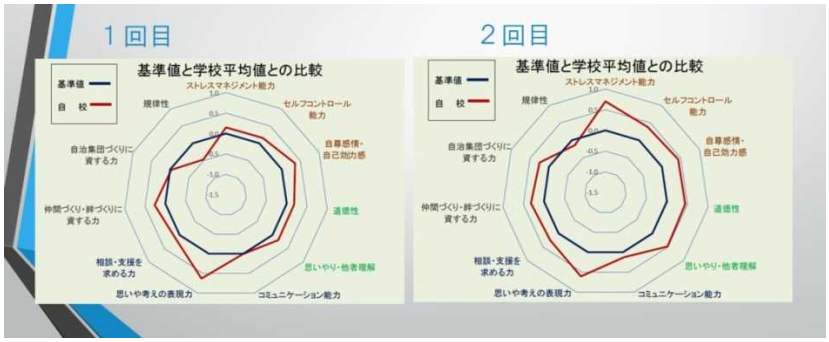

図９　いじめ未然防止プログラムアンケート結果比較

１回目は、入学後１カ月以内に実施したアンケート結果である。その後、数々の取組やパーソナルファイルの活用により、９月に実施した２回目では、ストレスマネジメント能力と思いやり・他者理解の観点がアップしているのがわかる。

また、このグラフは、１つのクラス内で比較したものである。２年目実施のグラフでは各クラス間の違いなども見ることができ、同じ学年でも、集団としての感性の違いなどを把握できるのは大きな情報と言える。

(2)　生活実態調査による成果

初年度は、対象が体育科のみということで、生活実態調査体育科バージョンを作成し、実際に高校生活への満足度変化を追った。１年間の追跡では、長期休業中から帰ってきた時期が、低迷しやすいという結果があり、２年目以降の指導に取り入れた。

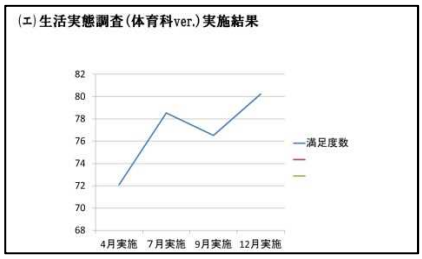

図 10　生活実態調査集計

(3)　生徒進路変更者数による成果

過去４年間の体育科生徒４０名中の進路変更者数の内訳である。パーソナルファイル実施初年度の平成２８年度は、進路変更者がなく、現在も０名のままである。

入学年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
進路変更者数	５名	３名	０名	３名

３　課題及び今後の取組の方向

・計画当初は、この生徒パーソナルファイルをより実用性を高めたものとするため、他校での実施を計画していた。しかし情報管理の厳しさや、担当職員にかなりの負担を強いる可能性があるので、どのように実施してもらうか検討する。

・今後の取組として、問題行動を未然に防ぐために、担任、顧問、授業担当者等の観点別評価をパーソナルファイルに取り入れ、その危険因子等を事前に把握できるようなシステムへの発展。

・教師からの情報だけでなく、生徒が発した言葉などの情報も取り入れ、教師が生徒対応でどう配慮すべきかという気づきの観点が導入できるものへと発展できれば幸いである。